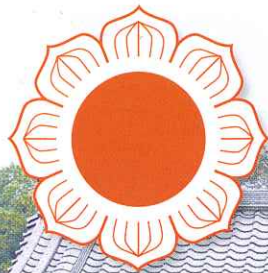


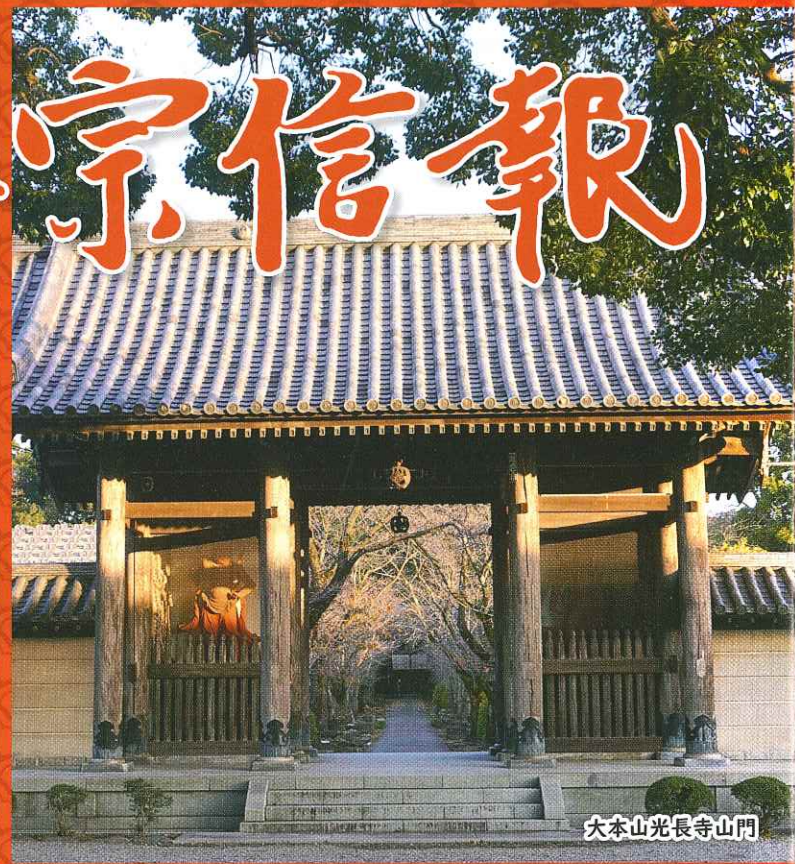
奉迎 日蓮大聖人 聖誕800年



法華宗信報



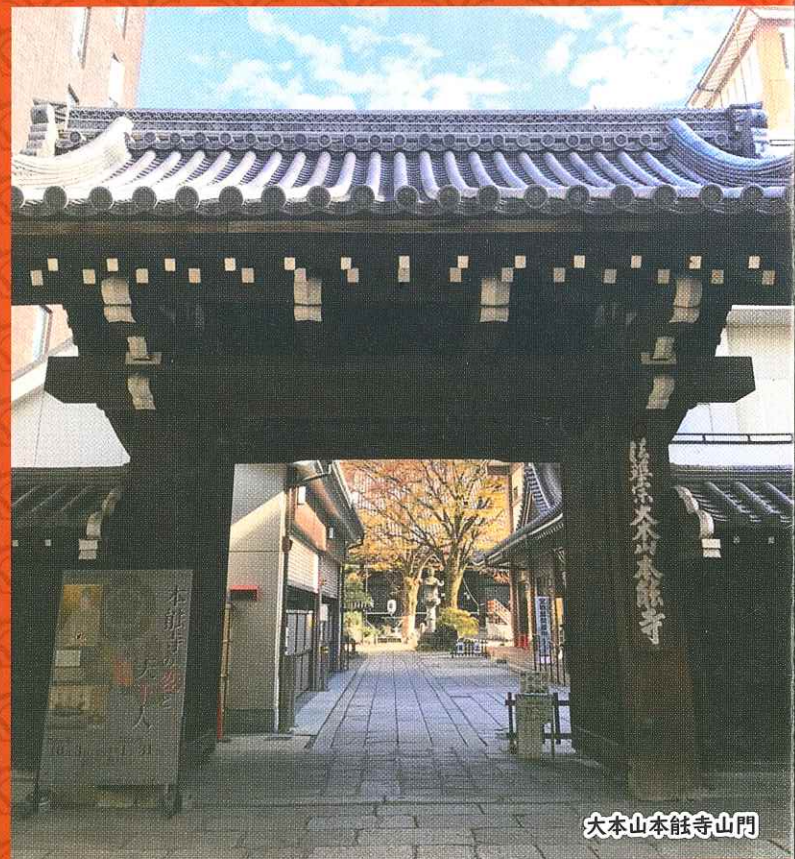
大本山鷲山寺山門



大本山光長寺山門



大本山本興寺山門



大本山本願寺山門

164

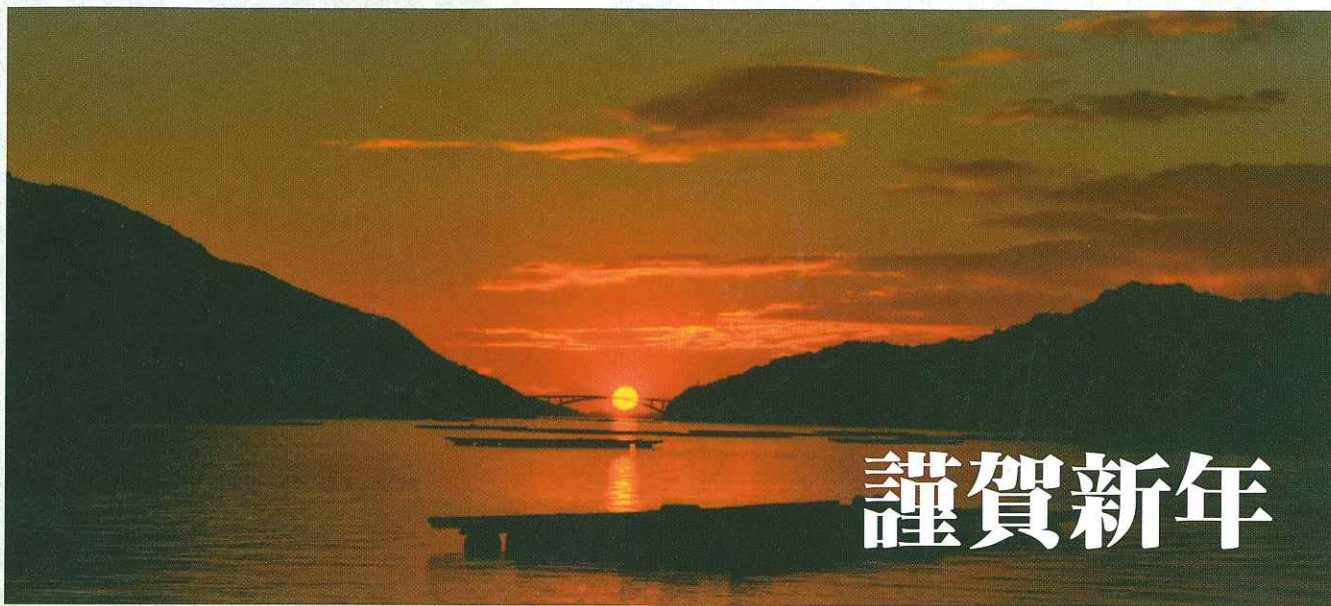
令和3年1月1日
発行 法華宗宗務院

信心のかけ橋

法華宗信報 164 号目次

- 2 謹賀新年 法華宗宗務総長 二瓶海照
- 4 奉迎日蓮大聖人聖誕800年御挨拶
大本山光長寺執事長 久保木学洋
- 5 大本山鷲山寺執事長 渡辺明博
- 6 大本山本願寺執事長 佐藤泰慎
- 7 大本山本興寺執事長 清水常光
- 8 日蓮大聖人の聖誕について 編集後記



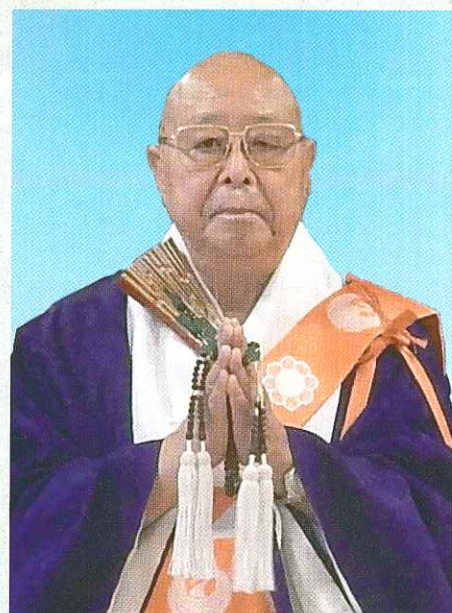


謹賀新年

表題写真提供 柴田義一氏

法華宗宗務総長

二瓶海照



『法華宗信報』読者の皆様、新年明けましておめでとうございます。本年も何とぞよろしくお願い致します。

昨年は新型コロナウイルス感染症に振り回された一年となりました。

同感染症により、尊い命を失われた皆様に深く哀悼の意を捧げ、仏果菩提をご祈念申し上げます。

罹患された皆様におかれましては、一日も早いご回復をお祈りいたしますとともに、ご家族様、関係者の皆様に、こころよりお見舞い申し上げます。

また、未だ収束する気配の見えない状況の中で治療や予防、ワクチンの開発など、対コロナにご尽力頂いている関係者の皆様に、深く敬意を表し、心から感謝申し上げます。

第二波、第三波とも言われる感染の拡大、ウィズコロナや、新しい生活様式という慣れない言葉が飛び交う中においてご不安をかかえ、また生活に影響を受けられている皆様におかれましては、ご心痛、如何ばかりかとお察し申し上げます。

今回の新型コロナウイルスの恐ろしいところは、病氣としての恐怖だけではなく、私達の心にも入り込んできているという点ではないかと思えます。疑心暗鬼、過剰反応、他人との交流に戦々恐々とし、人と会うこと話すことも躊躇してしまう、他人を「許す」ことの出来ない心の狭い状況を各人に作り出すようになってしまいました。お寺との付き合い方もまたご多分に漏れず、これまでとは大きく変わり、疎遠になりがちになってしまっているのが現状であります。

昭和を代表する文豪である武者小路実篤の言葉にこのようなものがあります。

「まかぬ種子は生えぬと言うが、我等は不幸の種子をまかず、幸福の種子をまくように注

意すべきである」

今まさに、新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、不幸の種が世界中に蒔かれています。そして人々の心の中にまで不幸の種が植えられようとしています。

私達法華宗徒が蒔くべきは幸福の種子であり、お題目であります。久遠の昔に仏になられた釈尊がご修行の時に唱えになられ、私も末法の世の人々のために宗祖日蓮大聖人がお示し下さった

本門八品上行所伝本因下種の南無妙法蓮華經をお唱えすること、そして他人を思いやる気持ちに常に持ち続けること、これこそが新型コロナウイルス感染症という身をも心をも脅かす病に対して、私達がすべき「行」であると確信しております。

本年は宗祖日蓮大聖人聖誕八〇〇年という記念すべき聖年です。未だ収束の見えない中でのお慶びとなつてしまいましたが、私達はお題目を通して、過去とも未来とも、大聖人も、全ての法華宗徒とも繋がっています。その距離は、ソーシャルディスタンスなどというよく分からない単語とは関係なく、常に密であり、また密でなければなりません。



今こそ、お題目を皆でお唱えし、このコロナ禍においても、宗祖日蓮大聖人への報恩感謝のお気持ちを保持していただくと共に、皆様の心に平安が訪れますことを祈念いたします。年頭の法話とさせていただきます。

合掌



山口県岩国市「錦帯橋」



日法聖人御廟所



令和四年四月五日奉修

御聖誕八百年奉讃法要

開創七百五十年奉讃法要

大本山光長寺執事長

久保木学洋

謹んで令和三年年頭を寿ぎお祝い申し上げます。

さて、昨年十月十二日に大本山光長寺では奉讃会本部委員会が開催されました。コロナウィルス禍が収束する兆しの見えない今日の状況下で、奉讃法要の日程諸事等について討議をいたしました。結果、当初の予定であった令和三年四月五日に奉修することは困難であると判断し、一年を待って令和四年四月五日に奉讃法要ならびに開創七百五十年法要を奉修することが決議されました。

また、現在進行中でございます御聖誕八百年奉讃報恩事業については、主にソフト面を重視した事業を計画・実行しております。旧門末寺院復帰（進行中）・山規改正（進行中）・宝物台帳調査（進行中）・御宝蔵内の総桐新収納庫設置・日法聖人御廟所発掘調査（埋蔵物調査中）・祖師堂内宝物展示場の構築（建築中）・中寫虎威画伯による蓮華、富士山、四季の花を描く祖師堂内陣壁画・番神堂前大楠の木保護のため石段移築・受付案内所の新築・山門前標識塔の建設・東海大地震対策として

本管工事消火栓設置等の諸事業を進めております。しかし現在のコロナウィルス禍のため、これらの奉讃事業の遅れが予想されます。

以上のような状況において、日蓮大聖人の誓願についていささか想いをめぐらします。大聖人の誓願は「一天四海皆帰妙法」であります。御聖誕八百年を迎えるにあたり、今私たちはどのようにすべきか、そして真剣に行動すべき事はどのようなことでしょうか。それは信行下種（お題目を信じて唱え、唱えて他に聞かす）の唱題行により迷いと苦しみのこの世界の安寧を祈願することであると考えます。

大聖人は『報恩抄』に「花は根にかへり真味は土にとどまる」とお示しになりました。いたずらに社会にへつらい迎合する事なく、八風（利・誉・称・楽・衰・毀・譏・苦）吹けどもしっかり根を張り幹を支えて枝葉を繁茂しなければなりません。

それには祖師の教えに立ち返る事が最も大切であり、どのように時代が変わるとも誓願は不変です。法界人界の平和を祈るこの事柄こそ大事であり、法華経を弘める時であると自覚し精進しなければなりません。法華宗の緇素（僧侶・信徒）は真摯なる行動が問われているのです。まさに今全世界が妙法に帰依するという誓願に対し、一心に唱題する修行の時です。



令和三年四月四日奉修
御生誕八〇〇年奉讃法要
鷺山寺開創七五〇年奉讃法要
大本堂落慶法要

大本山鷺山寺執事長

渡辺明博 わたなべあきひろ

大本山鷺山寺は、本年令和三年の日蓮大聖人の御生誕八〇〇年と、令和八年の鷺山寺開創七五〇年をお迎えするにあたり、平成二十五年一月に「高祖日蓮大菩薩御生誕八〇〇年・當山開創七五〇年奉讃会」を設置致しました。その目的は、お題目総下種運動を推進し、大本堂を建設することです。



おかげさまで、平成三十年三月に「株式会社金剛組」に建築を依頼し、平成三十一年一月に地鎮起工式、令和二年一月に上棟式、そして十月に無事完成をむかえました。

そして、十一月五日、六日の両日、御本尊・三宝諸尊・お祖師様を安置する新しいお厨子を須弥壇に設置する工事も終了し、十一月十二日遷座法要を奉修、門末・檀信徒の見守る中、お祖師様は新しいお厨子に無事ご安置されました。

この度の大本堂建設にあたりましては、鷺山寺の門末檀信徒はもとより、全国の法華宗寺院教会の住職、担任、僧侶のお上人方をはじめ、その檀信徒の皆様、ご縁のあります皆様より、多大なる浄財のご支援、ご協力をいただきました事、心から感謝致します。ありがとうございました。

法要につきましては、日蓮大聖人の御生誕八〇〇年・鷺山寺開創七五〇年の奉讃法要と大本堂の落慶法要を合わせて、本年四月四日に行うことを予定しておりますが、このコロナ禍のため今のところ詳細は未定です。

いずれに致しましても、ご協力いただきました皆様にはぜひお参りいただきたく思います。そしてこの大本堂がさらに多くの人達と御縁を結ぶ法華道場になる事を切に望みます。



令和三年六月四日・五日奉修

御生誕八百年記念大法要

開山堂落慶法要

御生誕八百年記念加入永代祠堂法要

千部会永代祠堂法要

大本山本舘寺執事長

佐藤泰慎

令和三年新年をお迎えするにあたり、ご挨拶申し上げます。

昨年の年始より発生した新型コロナウイルス感染症の拡大は止まることなく、いまだ世界的に被害が増え続けております。宗門・各御本山そして全国の御寺院での法要行事等の開催が困難を強いられ、変更を余儀なくされる現状に大変心を痛めております。

このような中ではありますが、宗祖日蓮大聖人御生誕八百年の聖年をお迎えするにあたり、大本山本舘寺は令和二年十月十三日開催の第百一十次臨時門末会において、コロナ禍における大法要奉修を検討した結果、宗祖日蓮大聖人御生誕八百年の聖年である本年に記念大法要を奉修することとなりました。ここに日程を報告いたします。記念大法要は令和三年六月四日・五日の両日に奉修されます。

日程の詳細といたしましては四日には御生誕八百年記念大法要・開山堂落慶法要を奉修し、五日には御生誕八百年記念加入永代祠堂

法要・千部会永代祠堂法要を奉修いたします。

記念慶讃事業といたしましては本山寺務所の新設移転を既に果たし、また大寶殿内に開山堂建設の事業を進めております。

あたかも世の中は日蓮大聖人がお示しになられたような、国土が荒れ、人々の心が乱れる混乱した社会です。そんな中、この記念大法要は今一度、大聖人の忍難弘通の御生涯を偲び、日蓮大聖人の教えを弘め「立正安国」の実現をみる絶好の機会です。

先が見えない不安定な状況の中ではありませんが、この情勢に迅速かつ柔軟に対応しながら、全国の御寺院様また、檀信徒の皆様のお力をお借りして総力をあげて臨んで参りたいと存じております。

宗祖日蓮大聖人御生誕八百年の記念すべき聖年を皆様と共に迎えられますように皆様の御健勝と御多幸を祈念申し上げます。





第3世 日登上人

日蓮大聖人



第11世 日諦上人

第6世 日与上人



第13世 日堯上人

第12世 日承上人



第18世 日庸上人

第15世 日運上人



令和三年六月五日・六日奉修
宗祖御生誕八百年奉讃法要
法華千部国持法要

大本山本興寺執事長

清水常光
しみずじょうこう

全国檀信徒の皆様、令和三年明けましておめでとうございます。

昨年令和二年はコロナウイルスに始まり、コロナウイルスで暮れた一年でありました。我が本興寺も例年の通常法要も儘ならず、山内のみでの法要奉修が続き一日も早く終息を祈るばかりでありました。

そんな中、昨年は当山の開創六百年、並びに日存・日道両聖人の六百遠忌の報恩法要を十一月の宗祖御会式に併せ奉修させて頂きました。

本年は宗祖御生誕八百年の聖年に当たりますので当山では、六月五日・六日に宗祖御生誕八百年の法要を千部法要と併せて奉修する予定であります。

奉讃記念事業も着々と進んでおります。その奉讃事業について経緯を述べますと、平成二十八年五月の定期門末会に於いて、「開創六

百年・宗祖御生誕八百年奉讃会」が発足しまして、翌二十九年には奉讃会役員及び規約が承認され、奉讃事業として日蓮御下が發願された祖師堂の改修工事と山門の修復工事、更に『本興寺史』の編集が承認されました。ところがその後、大阪北部地震と台風二十一号により諸堂のみならず宝物殿の外壁のタイルが剥がれる等の被害を受け、その復旧工事も奉讃事業の一環として含むこととし、工事が開始されました。

令和元年十二月十六日には本堂内部復旧工事完了、令和二年二月十九日祖師堂須弥壇復旧、同日二十日位牌壇復旧、三月十八日には祖師像宮殿も修復完了、四月二十四日には山門を含む全工事が完了し建物の引渡を受けました。今回の祖師堂改修工事では建物本体の修理に留まらず、仏具の修復・塗り直しも行い、殊に堂内に安置されていた宗祖像を始め、第三世日登・第六世日与・第十一世日諦・第十二世日承・第十三世日堯・第十五世日運・第十八世日庸等歴代各上人の御尊像の修復も行いました。宗祖像は大阪の豪商天王寺屋の寄進であり、その他の御木像も江戸時代（一六五〇～八〇年代）の造立であります。また記念奉讃事業とは別に、沖繩の「首里城」の火災を受けて、国からの指導により防火設備の大きな改修工事も始まり、今年三月の完工を待つばかりとなっております。

このように本興寺では諸堂の修復も終わり境内の景観も見違える程荘厳されました。今後は諸堂から御題目が溢れ出るよう、皆様方と共に御題目を唱え、今年御生誕八百年をお迎えする宗祖日蓮大聖人の御恩に報いたく考えております。

日蓮大聖人の聖誕について

今から800年前の貞応元年(1222年)2月16日房総半島の太平洋側にある漁村、千葉県の小湊で日蓮大聖人は御誕生になりました。

古来より大聖人の聖誕についての伝承が残っております。

「母親の夢の中で太陽が蓮華に乗ってその身に飛び込んできた」「浜には青蓮華が咲き庭には清水が湧いた」「沖合に鯛の群れが現れた」といった奇瑞(めでたい事の前兆としてあらわれる不思議な現象)が起こったと伝えられております。

何とも不思議なお話しですが、800年を経て今に伝わっているという事実が、大聖人に対する信仰の表れかもしれません。

大聖人は地元の名刹であった清澄寺に入寺されて以来、「真実」を求めて精力的に仏教を研鑽されましたが、その結果「ただ南無妙法蓮華經の七字のみこそ仏になる種には候へ」(『九郎太郎殿御返事』)という結論に到達され「ただ妙法蓮華經の七字五字を日本国(いっさいしゅじょう)の一切衆生の口に入れんとはげむばかり」(『諫曉八幡抄』)というご生涯を送られたのであります。

このように、大聖人は御題目こそが「真実」であるのご教示下さいましたが、もし大聖人がおられなかったならば、私たちは真実の仏法に出会うことが出来なかったのかもしれません。この真実の仏法は表紙に掲載されている光長寺・鷲山寺・本願寺・本興寺の四大本山を中心として今に伝えられております。



編集後記

新年、明けましておめでとうございます。
本年令和三年は、宗祖日蓮大聖人聖誕八〇〇年の聖年をお迎えするということもあり、二瓶海照台下をはじめ法華宗四大本山様にご協力をいただきました。特に四大本山様に於かれましては、コロナウィルス感染症が未だ収束が見えない状況にもかかわらず、取材・原稿を快くお引き受けくださり心より感謝申し上げます。
今号の二頁の日の出の写真は「迫門(瀬戸)の曙」と言い、日本の朝日百選にも選ばれている所の写真です。迫門の曙は平忠盛の和歌「虫明の迫門の曙見る折ぞ都のこともわすれられにけり」と詠まれています。私の地元瀬戸内市在住の柴田義一様より提供いただきました。
この聖年が皆様にとりまして幸多き一年となりますよう心からお祈り申し上げます。最後になりましたが、本年も「法華宗情報」をよろしくお願いたします。
圓成昭龍

大本山 鷲山寺



千葉県
茂原市鷲巢 48
TEL 0475-22-2978

大本山 光長寺



静岡県
沼津市岡宮 1055
TEL 055-921-0484

大本山 本興寺



兵庫県
尼崎市開明町 3-13
TEL 06-6411-3217

大本山 本願寺



京都市
中京区寺町通御池下る
TEL 075-231-5335

法華宗情報

NO.164

令和3年1月1日発行
編集部/〒701-4302

発行所/〒103-0013

印刷所/(株)創文社

発行人/二瓶海照 編集人/圓成昭龍
岡山県瀬戸内市牛窓町牛窓 3194 本蓮寺内
TEL0869-34-2014

東京都中央区日本橋人形町 2-19-1 法華宗宗務院
TEL03-5614-3055 <http://www.hokkeshu.or.jp/>

法華宗(本門法)公式ページ

